



高久香代子さん
永崎女性の会会長。「地域社会との絆を深め、明るい町をつくりましょう」をスローガンに41人の会員と活動を続けている。

リレートーク 281

笑顔の花が たくさん咲きますように

Q 永崎女性の会を設立したきっかけを教えてください。

東日本大震災で永崎地区は大きな被害を受け、当時の私たちは生活の基盤を取り戻すことに必死でした。震災から三年後、やっと日々の暮らしの一部が落ち着いてきたとき、今までいただいた数々の支援にお返しができていないことや、永崎の風光明媚な景色が一変していることに気がきました。

震災で失われた笑顔と美しい永崎を取り戻したい、できることから始めたいという地区の声を実現するため、設立しました。

Q 活動内容を教えてください。
主に、復興公営・災害公営住宅の方と行う花植え交流会や絵本の読み聞かせ活動、ハンドベル演奏などを

行っています。
年に二回行われる花植え交流会は、設立のきっかけにもなった大切な活動の一つです。地区の皆さんの心を癒やす活動はないかと考え、県道沿いの花壇などに花を植える活動を始めました。被災して避難を続ける公営住宅の方にも声を掛け、多くの方と交流を深めています。色とりどりの花は永崎の景色を鮮やかにしてくれるだけでなく、私たちの心を結び付け、潤いを与えてくれます。数年前からは、区内の中学校や高校の生徒も参加してくれるようになりました。にぎわいも出てきました。



花の配色などを考慮し、見る人を楽しませる工夫を取り入れた花植え交流会

会員の練習にも力が入ります。
また、昨年は市の地区まるごと健康づくりモデル事業(※)への参加を通して、地区における健康づくりについても学びました。私たちは、心も体も豊かに健康にという思いで活動しているのです。このような活動には今後も積極的に参加していきたいです。



季節や子どもの学年に合わせて選んだ絵本で読み聞かせをする高久さん

絵はがきの 中の 「いわき」



絵はがきの種類⑤ (災害、学習教材など)

大規模な地震や風水害を伝える手段として、新聞や雑誌がありました。新聞は速報性があり、読者に被害の様子を文字媒体でいち早く伝えることができました。明治三十年代には新聞の紙面に写真が姿を現すようになりました



大惨事となった磐城炭鉱内郷坑内火災事故の社葬 [昭和2 (1927) 年 磐城炭鉱株式会社発行]

明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されてきました。絵はがきに残る当時の風景などを通して、いわきの歴史や文化をひもときます。

が、暗部は黒くつぶれ、明部は白く飛ぶなど画質が悪かったため、細部を表現するには至らず、多くは雰囲気さえも伝えることができない状況でした。これに代わる存在となったのが絵はがきでした。速報性の面で新聞には劣りますが、画質の面では解像度の高い写真製版の一つであるコトタイプ印刷により、何枚かの組み写真として販売され、高画質の画像を人々に届けることができました。数の多さでは関東大震災が目立ちますが、いわき地方でも多くの自然災害や事故に見舞われ、絵はがきの題材となっています。

学習絵はがきの場合は、文字どおり団体や機関、学校、行政などが学術や学習の教材としての観点から、考古資料や美術絵画・彫刻、書などの学習絵はがきを発行していました。また、失われようとしている生活習慣を再認識してもらう目的で開催された民俗企画展に併せて発行された絵はがきが、民俗学的な記録として意義を持つ場合もありました。
(いわき地域学會 小宅幸一)

気候変動アクション大賞 (環境大臣表彰)

○開発・製品化部門

▷小松技術士事務所=草木台

同表彰は、気候変動の緩和などに関し顕著な功績のあった個人や団体に授与されるものです。二酸化炭素と海洋プラスチックごみの削減に効果があるポリ乳酸製品の成形方法を確立し、安定的な供給に寄与したことが評価されました。

ボランティア功労者厚生労働大臣表彰

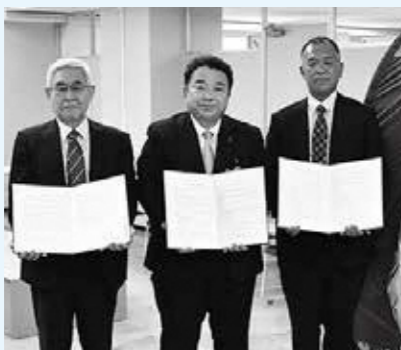
▷CAPいわき=小名浜

同表彰は、福祉分野などのボランティア活動に顕著な功績のあった個人や団体に授与されるものです。参加型体験学習を通じて子どもの人権の尊重等の醸成を図るなど、児童福祉の向上に大きく寄与したことが評価されました。

災害時等における物資の供給協力に関する協定を締結

市は、11月26日に、常磐パッケージ株式会社および加藤段ボール株式会社と同協定を締結しました。

同協定に基づき、災害発生時に避難者の負担を軽減するため、段ボールベッド等を



避難者へ物資を迅速・円滑に供給するため協定を締結